

地域に誇りをもち、心豊かでたくましく、 自ら学ぶ子どもの育成。

施設一体型小中一貫校「南松尾はつが野学園」 学園長インタビュー

和泉市初の施設一体型小中一貫校として2017年開校した「義務教育学校 南松尾はつが野学園」。
9年間の学校生活を4・3・2制に区切るフレキシブルな教育を採用し、
学校生活の充実と向上を図っています。
ここでは学園長に、話題を集める一体型の施設や
現在の取り組みについてお聞きしました。



自然なカタチで成長していけるよう 子どもの心の変化に着目。

和泉市立 南松尾はつが野学園は、2017(平成29)年4月に開校した小中一貫教育をおこなう9年制の公立学校です。南松尾はつが野学園では小学校を前期、中学校を後期としています。さらに当学園は10歳ぐらいで訪れる心の変化に着目し、1年から4年までファーストステージ、5年から7年までセカンドステージ、そして8年・9年をファイナルステージと設定。さらにそれぞれのステージに目標を掲げています。ファーストステージの目標は自らの存在価値を感じる自己有用感の育成で、セカンドステージでは自分の役割に責任を持つように、さらにファイナルステージでは社会の1人としての責任感を養うことを目指しています。このように1年から9年まで自然なカタチで成長をサポートし、つながりのある生徒指導や支援教育が、子どもたちの生きる力を養っています。

盛んな異年齢交流が、 互いの成長を見つめ合う機会に。

「中一ギャップ」という言葉がありますが、これは小・中で大幅に変わる環境に適応できずに悩みを抱え、その結果いじめや不登校になってしまうことを表しています。ところが当校では、日ごろから年齢差の異なる子どもたちが同じ施設内で過ごすし日々いろんなシーンで交流を持つことで、小学生は中学生に進級する抵抗感はなく、また上級生は下級生に対する思いやりの心が育まれているようです。異年齢交流も盛んで、休み時間にはみんなで一緒にサッカーを楽しんだりしていますよ。ランチルームでは1年生から9年生までの生徒たちが、給食を一緒に楽しく食べるなど、互いの成長を見つめ合う機会にも恵まれています。





9学年と一緒に学び、 成長するゆとりある施設。



当校は和泉市で初めてとなる公立の施設一体型の学校です。各施設は1年から9年まで全学年が使用したり、交流することを考えて、それぞれにゆとりを持たせています。運動場は両翼90mの野球グラウンドを確保できる広さ。体育館はバレーボールコートが3面分のスペースを誇り、床にクッション性のあるシートを採用しています。また、2階にある図書室も広くて開放的で、蔵書数も多く絵本から推理小説まで、全学年が楽しめるラインナップを誇っています。たとえばファーストステージの生徒が歴史の本を読んだり、逆にファイナルステージの生徒が絵本を手取るなど、自由に読書を楽しんでいますよ。また屋上には、和泉市が一望できるテラスが設けられています。



小中だけではなく、幼保との連携も視野に。



すでに小中だけの一環教育は実施していますが、現在、保育園や幼稚園との連携にも取り組んでいます。

先日、学習院大学の先生を講師にお招きしたオンライン研修を行う際には、今年度入学した125名の児童の出身幼稚園・保育園などに連絡して参加していただくようお手紙を出しました。

その結果、半数以上の先生が参加してくださり、有意義な時間を過ごすことができました。

このような活動を通じて、当学園ではたくさんの人とつながるなかで幼稚園から中学校までできるだけ途切れることない教育を実現したいと思っています。

※2022年5月現在



学園ブログもぜひご覧ください。

みなはつダイアリー

検索